



明治のナイチンゲール 近代看護の开拓者

大関和のあゆみ

- 安政5年 (1858) 現在の栃木県大田原市に生まれる
- 明治19年 桜井女学校附属看護婦養成所 入学
実習先の帝国大学医科大学第一医院で
瀬尾原始と出会う
- 明治21年 看護婦養成所を卒業
帝国大学医科大学第一医院 外科
看護婦取締(看護婦長)となる
- 明治23年 高田女学校舎監兼伝道師として赴任
- 明治24年 瀬尾原始と再会
知命堂病院開院 初代看護婦長となる
- 明治27年 知命堂病院産婆看護婦養成所創設
- 明治29年 桜井女学校時代の恩師の看病のため東京へ
戻る
東京看護婦会講習所講師
- 明治32年 著書『派出看護婦心得』刊行
- 明治34年 東京看護婦会会頭 就任
- 明治40年 病氣療養のため那須湯本に逗留
- 明治41年 著書『実地看護法』刊行
- 明治42年 大関看護婦会 設立
大関看護婦講習所開設
- 明治44年 大日本看護婦協会東京組合長 就任
- 昭和7年 74歳 死去

連続テレビ小説「風、薫る」主人公のモチーフ

おおぜき ちか
大関 和

明治時代に基督教の影響を受け、西洋式看護を学び、日本の看護師制度の基盤を築いた女性です。

当市には、明治23年、高田女学校の舎監兼基督教の伝道師として赴任し、伝道活動や廃娼運動を行いました。

翌年には、かつての師である瀬尾原始と高田の路上で再会したことをきっかけに知命堂病院の初代看護婦長に就任しました。

その後、同院に産婆看護婦養成所が創設されると養成事業にも協力し、養成所の基礎を確立するなど、高田の地で約5年半に渡り、大きな功績を残しました。大関和にとって高田は、飛躍の地となったのです。

看護技術の向上や 後輩看護師の育成に尽力

看護師として働くだけでなく、知命堂病院産婆看護婦養成所や東京看護婦会等で講師を務め、多くの看護師を育てました。

感染症対策と公衆衛生の普及に尽力

当時、コレラや赤痢などの感染症に対し、看護学校で学んだナイチンゲール方式にもとづき、排せつ物の正しい処理、丁寧な清掃と換気、患者の身体や衣服を清潔にすることを徹底し、大きな成果をあげました。

看護師の仕事やその存在の 重要性についての普及にも尽力

『派出看護婦心得』や『実地看護法』を刊行するなど、著書の刊行や雑誌への寄稿を通して看護婦の重要性や意義、看護の実践方法等について普及啓発を図りました。

おおぜき ちか

大関和と知命堂病院の記録



桜井女学校看護婦養成所第一期生と
アグネス・ヴェッチ
(前列右から2番目 大関和)



大関和氏（右）と瀬尾ソノ院長夫人
大関和は熟練看護婦として、知命堂病院在職中は新しい看護法を実施し、技術を駆使した。院長の次男が気管支肺炎で呼吸困難に陥った時、呼気吹き込み式のマウスツーマウス人口呼吸法を行った。院長夫人が腸チフスで重篤となった時、約70日間模範的な看病を行った。この時、看護婦の手本を示したとして院長に感謝され賞賛された。



明治27年頃の大関和（左）と
瀬尾ソノ院長夫人（左から3番目）及び生徒



傷病兵の手当 直江津駅松葉館
(左から2番目瀬尾原始 右から3番目ソノ夫人)

日露戦争の非常時において会員約30名は知命堂病院医師により速成看護術の講習を受け、その手当に当たった。



レルヒ少佐の送別会
(左から4番目レルヒ少佐)

純日本式会席でもてなしている。会場は瀬尾原始宅。参加者は、玄弘、原始と家族、病院看護婦。

画像(右下)：日本スキー発祥記念館展示パネルより
画像(その他)：医療法人知命堂病院提供

おおぜき ちか

大関和と知命堂病院の記録

本日知命堂病院の開院式を執り行わるゝに際し
喜びの餘り一言を陳へて祝意を表せんとす、畏き
に当院々長瀬尾原始先生の医科大学第一医院二奉
職せらるゝに當りてや、躬ら妹等看護婦教養の勞
を按られ百事いと懇篤に指導せられたりき、妹等
幼弱の躬を以て重任に當らむ事ハ中々に思ひ
侍らさりしも、幸に先生の懇ろなる訓誨に頼より、
他日の熟練を期し以て今日に至るを得たりき、然るに
因らざりき今度当地に於て先生の尊大人玄弘老
師新たる知命堂病院を設立せられて、そが院長
の任を先生に委ねられき、尚ほ各科の医長をも
妹等が嘗て恩義を蒙りし方々に委ねられき、且
つ妹の不肖をも顧みられず当院看護婦長の重任
を托せられぬ、妹の光榮何ものか之に過きん、冀くわ
勉めてその職を尽し、平素の訓誨に背かずあわれ当院
の光輝を長へに輝やかさん事を祈り、一ハ諸先生の
学恩に報ひ、一ハ当北越に尽さん事を、不肖を顧みず
喜びの餘り聊か蕪辞を陳へて祝意の誌となしぬ
明治廿四年十二月一日 看護長 大関 和 謹白

知命堂病院の開院式を執り行はるゝに際し
喜びの餘り一言を陳へて祝意を表せんとす、畏き
に当院々長瀬尾原始先生の医科大学第一医院二奉
職せらるゝに當りてや、躬ら妹等看護婦教養の勞
を按られ百事いと懇篤に指導せられたりき、妹等
幼弱の躬を以て重任に當らむ事ハ中々に思ひ
侍らさりしも、幸に先生の懇ろなる訓誨に頼より、
他日の熟練を期し以て今日に至るを得たりき、然るに
因らざりき今度当地に於て先生の尊大人玄弘老
師新たる知命堂病院を設立せられて、そが院長
の任を先生に委ねられき、尚ほ各科の医長をも
妹等が嘗て恩義を蒙りし方々に委ねられき、且
つ妹の不肖をも顧みられず当院看護婦長の重任
を托せられぬ、妹の光榮何ものか之に過きん、冀くわ
勉めてその職を尽し、平素の訓誨に背かずあわれ当院
の光輝を長へに輝やかさん事を祈り、一ハ諸先生の
学恩に報ひ、一ハ当北越に尽さん事を、不肖を顧みず
喜びの餘り聊か蕪辞を陳へて祝意の誌となしぬ
明治廿四年十二月一日 看護長 大関 和 謹白

大関和から知命堂病院創立への祝辞 明治24年12月1日

會長瀬尾原始殿

古ヨリ醫術ノ進歩今日ヨリ盛ナルハナシ蓋
シ昨日ノ是トセシ所ハ今日己ニ非トナリ今日ノ
新トスル所ハ明日己ニ陳トナリ駸々乎トシテ底
止スル所ヲ知ラズ嗚呼盛ナリト謂フベシ抑々
本會ハ明治二十五年創立以來本郡醫術
ノ進歩盤権ノ擴張ハ勿論一般衛生ノ發達
改良ヲ謀リ病ヲ未發ニ驅リ毒ヲ已發ニ徐キ
以テ衆庶ノ幸福ヲ増進セシコト果シテ幾何
ゾヤ是レ全ク國家盛運ノ然ラシムル所ト雖モ
亦以テ諸役負其人ヲ得テ滿五年間盡瘁
ノ功ニ由ラスンバ馬シゾ能ク此ニ至ルヲ得シ今ヤ
制度ノ改革ニ因リ本會ノ解散ニ際シ三ツ
組銀盃ヲ呈シ聊カ感謝ノ意表ス

明治四十年十月六日

中頸城郡醫會



中頸城郡医会から瀬尾原始へ感謝状
明治40年10月6日



知命堂病院 初代院長

せ お げんし
瀬尾 原始

上越地域における 近代医療の先駆者

瀬尾原始のあゆみ

- 文久元年 (1861) ● 現在の上越市北城町に生まれる
- 明治14年 ● 東京大学医学部本科 入学
- 明治20年 ● 帝国大学医学部本科 卒業
帝国大学院医学部外科 入学
日赤篤志看護婦人会 発会式
- 明治21年 ● 帝国大学看護婦養成所講師 就任
帝国大学第一医院外科 勤務
実習生である大関和を指導
- 明治22年 ● 帝国大学第一医院
看護婦養成所掛 就任
岡山第三高等学校医学部 教諭
兼 岡山県病院外科医長 就任
岡山産婆看護婦養成所 講師 就任
- 明治24年 ● 岡山県から越後高田へ帰郷
- 大関和と再会
知命堂病院 院長 就任
- 明治25年 ● 知命堂病院施療患者最初の解剖
研究用骨格標本(養成所教材)製作
- 明治27年 ● 知命堂病院産婆看護婦養成所創設
同上所長 就任
- 明治37年 ● 日本赤十字社篤志看護婦長会
高田支部 設立
- 明治44年 ● 初代高田医師会 会長 就任
- 大正6年 ● 上越聯合医師会 初代会長 就任
- 昭和5年 ● 69歳 死去

帝国大学医学部を卒業後、同付属病院で医師として研鑽を積み、看護婦養成所の講師を務めました。

明治24年に知命堂病院を創設。理想とする近代医療には科学的知識を持つ看護婦の存在が高田の地でも不可欠であると確信し初代看護婦長に大関和を招聘しました。明治27年には同院において県内初ともいわれる看護婦養成所を設立しました。

その後、中頸城郡私立産婆養成所の講師も引き受け、中頸城郡から感謝状を授与されています。後に高田産婆会長、初代高田市医師会長にも就任しました。

知命堂病院の基礎を築く

初代院長として、大関和を看護婦長に招き、地方における近代医療と専門的看護の礎を築きました。

日本赤十字社の活動支援

日露戦争による戦傷者の増加を受け、日本赤十字社の活動を支援するため、高田に「日本赤十字社篤志看護婦長会高田支部」を設立しました。その活動を援助し、会員に医学、救急法の講義を行いました。また、傷病兵の内地送還者の治療や災害時の罹災者救助などにも出張していました。

高田の発展に貢献

公共事業、衛生事業に関心が深く、高田の水道事業への助言や、高田測候所設置にも尽力しました。